

1等米比率90%以上を達成しよう！！

コシヒカリの播種は4月25日頃から！ 田植えは5月15日頃を中心に

☆育苗計画の目安（育苗日数は20日間以内を目安に）

消毒	浸種	播種	田植日	出穂期(目安)
4/7	4/8	4/19	5/10	8/1頃
4/15	4/16	4/25	5/15	8/5頃
4/23	4/24	5/2	5/20	8/7頃

今年は、種子の休眠は概ね平年並みです。  
ただし、同一品種内でも、バラツキがあるため、  
籾の状況を必ず確認しましょう。

☆育苗のスケジュールと作業内容

作業	温度管理	作業管理のポイント
4/15 ↓ 4/16 ↓ 4/24 ↓ 4/25 ↓ 4/27 ↓ 4/29 ↓ 5/15	比重選 種子消毒 浸種 催芽 播種 出芽 搬出緑化 硬化 田植え	<p>① 比重選で種籾を厳選 ～病気や発芽不揃いをしっかり予防～ ・硫安による発芽障害を防ぐため、比重選後の種籾はすぐに水洗いを行う</p> <p>② 種子消毒を徹底 ・種子消毒は、モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬（温度管理が重要）</p> <p>③ 浸種は 10～15℃の水温を確保 積算温度(水温×日数)100℃の目安 ・2日に1回は水を交換し、酸素不足を防ぐ 水温が上がり過ぎないように、置き場に注意（低温にも注意!） ・後半は必ず芽の動きを確認し、動きがあれば浸種を終了する</p> <p>④ 芽の長さをこまめにチェック ・均一に催芽するため1日2～3回、袋を反転させる ・均一に播種するために、種籾の水切り(脱水)は十分に行う（籾が手に付かない程度まで陰干しを行う）</p> <p>⑤ 播種量は乾籾で箱当たり120g(催芽籾150g) 厚播きは苗質が悪くなる</p> <p>⑥ 育苗器の温度をこまめにチェック（サーモスタットの使用前点検は必ず行う!）</p> <p>⑦ 芽が1cm程度に揃ったら搬出 ・搬出時には、覆土を落ち着かせるためかん水する ・緑化したら速やかに被覆資材をはずす ・日差しがある日は、朝から換気を徹底する ※低温が予想される場合は搬出を見送るか、かん水せずに被覆資材で保温につとめる</p> <p>⑧ かん水は朝にたっぷりと行い、日中は床土の乾きに応じて行う ・田植えの7日前からは、昼夜ともに換気し、十分外気に慣らす</p>

【比重液の作り方(水10Lの場合)】

	比重	硫安
うるち	1.13	2.5kg
糯・酒米	1.08	1.5kg

目安:ハト胸～2mmまで



床土と覆土あわせて25mm程度(床土18mm、種子2mm、覆土5mm)とすれば、  
苗箱上部との隙間(5mm)により、培土への吸水量が増加し、乾きにくくなる。

育苗箱上面に隙間があることで、培土が十分に吸水できるようにする。

※苗箱施薬剤を播種時に使用する場合、規定量が散布されているか確認!

【搬出時～緑化期にカビが多発した場合は】  
○ダコレート水和剤500倍液を1箱当たり500ccかん注  
(ただし、播種14日後まで)

【ムレ苗防止の場合は】  
○ナエファインフロアブル1000倍液を1箱当たり500cc  
かん注(緑化期)

春の土づくり ～ 収量・品質の向上は、まず土づくりから ～

珪酸質資材及び有機物の施用

- ・珪酸には、登熟歩合の向上、割籾防止の効果があります。耕起前に珪酸質資材を施用しましょう(表1)。
- ・稲体の活力維持のため、発酵ケイフンなどの有機物を施用して地力の維持・向上を図りましょう(表2)。

深耕による作土層の拡大

- ・作土層を深くすると、根圏が広がり、深く伸びた根が収穫まで稲の活力を維持し、収量・品質が向上します。
- ・耕起は、トラクタの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くして、作土の深さを15cm以上(現状より3cm程度深くする)確保しましょう。

表1 主な珪酸質資材施用の目安

資材名	施用量(10a当たり)
大地の祭りS	100kg
シンキョーライトP	60kg
スーパーけいさん鉄	60～100kg

表2 堆肥施用の目安(春施用)

堆肥名	施用量(10a当たり)
発酵ケイフン	75～100kg

注)春施用する場合は、基肥チッソ量を1～2kg/10a程度減肥する。

春の農作業安全運動 (4/1～5/31)